

---

# 初恋

憂鬱姫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

初恋

### 【ZINE】

Z8882K

### 【作者名】

憂鬱姫

### 【あらすじ】

紅実は、名門高校の紅河高校に合格ーー！  
しかし、紅実は入学早々のドジっ。

けれど、ある男の子の出会いはそのドジによって始まったーー！

## 初恋（前書き）

あくまでも、オリジナルです。

## 初恋

初恋とは何なのか . . .

それ以前に恋とは何なんだらう?

分からずに恋したあの時。

甘酸っぱいような 苦しいような気持ちになつたり  
そんな私をそんな風に悩ましたのがあいつで  
そんな奴に恋したのが私。

なぜ恋したのだろう?

友達だつたあの日から一変した 私の思い。

いつもは 普通に話していたのに

それに築くとなぜか 話しずらくなる。

ほかの子と話していると やきもちを妬いてしまつ。  
そんな私はそんなあいつに最大の恋をした。

私は、この小説の作者の憂鬱姫です。

なぜ、憂鬱かといいますと . . .

恋つて、憂鬱な事多くないですか?

まあ、簡単に言えばそれに関連性があると言ひ訳ですね . . .

初恋（後書き）

はい、『初恋』といつ題名の小説を書かせていただきます。  
私も、ドジなので漢字も間違える場合もありますが  
暖かい田でみてやつてください。。。

## 第1章 出会い × デジ（繪書き）

第1章田です。始めが重要なので頑張って書きますーー！

## 第1章 出会い × ドジ

初恋 それはよく分からぬ気持ちにあふれる時

私は そんな気持ちになつて

君に恋したんだ

春になつた。私、荒野 紅実は

名門高校に進学しましたー。

えへへへへつ

紅実は、胸に期待を膨らませながら

入学式に挑んだ。

受付の人に、一枚の紙を渡され

「この番号の椅子に座つてください。」と

言われて、自分の番号を探した。

『えーっと、15番 . . あ、ここ . . 』

何かに引っかかつて思いつきりこけた。

運悪く、おでこに衝撃な痛みが走った。

『痛い . . . 』

入学式早々こけるなんて . . 恥ずつ

立てるうとしたその時、紅実の前に陰がかかった。

そして、手を差し伸べこう言つた。

「大丈夫か?」

『なんとか . . . 』

その子に、礼を言おうとし顔をあげたら

その子は、くすくすと笑う。

えつ、私なんか可笑しい?

近くにいた子が貸してくれた鏡で見ると  
ぎやつ . . . 髪がボサボサで顔も . . .

「はい、くしつ」また、借りた。

急いで髪を直して自分の席の戻つた。

もう、入学早々ドジつちゃたよー。。。

どうしよう . . . 変な目で見られたwww

あまりにも、ショックが大きく落ち込んでいく  
紅実。

入学式も終わり教室に行くことになった。

『うちつて、何組だつけ??』あきらかにも、  
紙をなくしたようだ。

そしたら、「君は、5組。」と誰かに言われた。

『ありがとう . . . あつーー!』

その人物とは?

## 第1章 出会い × デジ（後書き）

次回もお楽しみにー

## 第1章 出会い ×男の子

『ありがとう . . . あつ！！。』 女の子は俺に指を刺す。  
あ、そういうや朝会つたよなこいつに . . .

「人に指をさしたらダメだよー？？」 刺していた指を  
俺は優しく下ろした。

すると、勢いよく言つてきた。

『朝、なんで私のこと笑つたの！？』

あー、あれね。 . . 。

だつて、笑うしか出来ないだろつ

ライオンの鬱みたいな髪してたし（笑）

『ちょっと、なんでまた笑つてんのよー！（怒）』

「ん？ あー、思い出し笑い . . . クスクス」

腹痛いし www

『もー、笑つてばっかりしてないでなんか言つたらどうよー…』  
完全に切れている女の子。

「んー、じゃあ名前教えてくれたら笑うのやめる。」

そういうや、名前も聞いてなかつたしなつ

『じゃあ、あなたの名前も教えてよねつ』

「分かつた分かつたつ、俺は荒野 吾妻そつちは？」

『あ、私？私は、荒野 紅実。てか、一緒の苗字だねー（笑）』

確かにwww

「てかさー、皆教室行つてるけど。 . . 。

『えつ、まじで？？』

「急ぐよ」

俺はそういうて、紅実の手を引っ張り走つた。

『ちよつ . . . 速い！！』 ペースを落とす暇もない。

「仕方ねえーなつ、よいつしょ」

『えつ、なんでおんぶなの！？』

『えつ、なんでおんぶなの！？』

紅実の言葉を聞く暇もなかつた。

## 第1話 出会い × ハプニング

紅実

荒野 吾妻はいきなり私をおんぶした。

『 ちょっと、止まつて～。』必死に、降りよいつとするが  
スピードが速すぎて降りれなかつた。

体育館からは明らかに遠い廊下。私たちは、風を切るように廊下を走つていた。

何分ぐらい経つただろうか？いきなり、私を降ろした。

「着いたよ。じゃ、またね」

荒野 吾妻は、スタスターと教室に入つて行つた。

私も、教室に入つて席に着いた。荒野 吾妻のおかげで遅れる事もなかつた。

（後で、お礼言わなきや）

吾妻は私の席の前。いつでも、お礼は言えるのだがなかなか言い出せない。

ガラツと先生が教室のドアを開け生徒の前に立つていつた。

「えー、『入学おめでとう！』先生は、20半ば。本校では、一番若い！だから、先生も君たちの相談に

乗れるから、気軽に話してくれ！…さつそくだが、委員決めをしたいと思う。まずは、学級委員から。

やつてみたい人はいるかー？」

皆誰もが、やりたくないという感じの空気。先生は、ため息をついて言つた。

「 しようがない子達だなー。じゃあ、1番と2番が仮学級委員にな

つてもうひとつ。いいか?』

『えつ、なんですかその決め方!!!』私は、立ち上がった。

「仮だけだから、いいだろう?まあ、希望がいたらすぐ変われるからいいだろう?』

仮だけならいいか・・・。

『分かりました・・・』しぶしぶ、仮学級委員になつた私たち。

「じゃあ、さつそくだが今日は仕事があるからな。放課後残るんだぞ!』

し・・・仕事??.聞いてないよ、そんな事!..

「じゃあ、今日はこれで解散!!..さよなら』

皆一斉に、教室を出る。私も、人ごみに紛れて帰ろうとしたら・・・  
「コラッ、作業があるつていつただろう?..まずな、教科書とプリントを皆のつくれに置いて

プリントは5枚ずつホッチキスで留めるんだ。まあそれだけだから頼んだぞ!..』

ドサッと、教科書とプリントを渡して先生は教室を出た。

多いしwww、もういや!!..あれ、荒野 吾妻がいない。。

「あいつ、逃げた??」周りを見渡しても誰もいない教室。

「ちえ、いいもん。一人でやってやる!!..』

半分やけくそで、作業を始めた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8882k/>

---

初恋

2010年10月13日19時22分発行